

## 平成 20 年度研修員 齋藤 昌子さんの声

### プロフィール

大学で法律を学び、英国の大学院では国際政治経済学を専攻しました。メディア分野の民間企業に勤めた後、UNHCR 駐日事務所の広報担当、内閣府国際平和協力本部 (PKO) 事務局の国際平和協力研究員を経て、本事業に参加しました。現在は UNMIS 選挙支援部で活動しています。

### はじめに

「平和構築について勉強したことないけど大丈夫かな」「今まで民間企業で働いてきたけど何かできることないかな」「もう 30 歳を過ぎているけど、まだキャリアチェンジ間に合うかな」――。これを読んでハッとする方がいらっしゃったら、そんな方にこそ「あなたのこれまでの経験が世界の”平和の構築”に役立つんです」ということをお伝えできたらと思っています。

### 1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

大学では法律を、英国の大学院では国際政治経済学を専攻しました。社会人としてはメディア分野の民間企業に勤めた後、国連難民高等弁務官 (UNHCR) 駐日事務所の広報担当、内閣府国際平和協力本部 (PKO) 事務局の国際平和協力研究員を経て、外務省平和構築人材育成事業に参加しました。

平和構築に関わるためには、紛争解決、人道支援、人権、開発等の分野で社会人としての実務経験を積むという「特別な何か」が必要なので

はないかと思うかもしれません。実際、私自身がそうでした。私が中学生から大学生を過ごした時期はベルリンの壁崩壊や湾岸戦争、カンボジア PKO、旧ユーゴスラビアでの人道的な危機、アジアでの経済危機等、国際政治・経済が激動した時代で、外交や国際協力に関わる仕事への興味を抱くようになりましたが、20 代のときにはなかなかきっかけがつかめませんでした。

しかし、民間企業に勤めていた時に訪問したコンボで国内避難民の女性から「遠い日本か



[国内研修のワークショップ後の記念撮影]

[左端が齋藤さん]

ら来てくれてありがとう。私たちの存在をもっと多くの人に伝えてほしい」と強いメッセージをもらったのがきっかけで、「伝える」というメディアでの経験をいかすことができるかもしれないと思うようになりました。ご縁があって UNHCR と内閣府 PKO 事務局に勤めてから民間企業で得た知識や技能が生かせることが分かり、「平和構築」と「広報」といった切り口で関わらせていただいています。民間企業から UNHCR に転職した時点で既に 32 歳でしたから、20 代半ばから平和構築分野で活躍してきた仲間たちに比べると決して早いスタートではありませんでした。

その後、平和構築の分野でのキャリアをどうやって発展させていけるか模索していたところ、先輩方や同僚のアドバイスをきいてみると、社会人として東京で働いてきた私には「フィールド」での経験が不足していることが分かりました。職場のミッションや学生時代にインターン等として、スリランカやコソボ、カンボジア、パキスタン、東ティモール、ネパール等に短期間滞在したことはあったのですが、必要なのは現場にしばらく赴任して仕事をするという経験でした。また、自ら現場に足を運びたいとの思いを抱くようになっていました。さらに、ある方からは「平和構築」や「紛争解決」等に関する学術的な知見を深めたほうがよいとのアドバイスもいただきました。そこで、これらの二つの不足している点を補いつつキャリアをより深めていくことのできる機会だと考え、外務省平和構築人材育成事業に応募することにしました。

## 2. 国内研修の感想は？



〔国内研修のグループワークでファシリテーターをつとめる齋藤さん〕

平和構築人材育成事業の 3 本柱の一つである国内研修では、日本及びアジア諸国から集まった約 30 名が、約 6 週間寝食共にして研修にのぞみます。平和構築概論や紛争解決、紛争地域概論等、短期間で包括的に学ぶことができました。しかしそれ以上に有益だった点を二つ述べると、まず現場ですぐに活用できる職務遂行上必要な実践的なスキル。そして、最前線で活躍する実務家の方々や志を共にする仲間たちとの人的ネットワークです。

### (1) 実践的なスキル

研修中は講義だけでなく何度もグループワークが行われました。ある課題についてグルー

プで提案書やプレゼン資料を作成したり、発表したりします。限られた時間と環境の中で効率的に情報を収集すること、言葉や価値観、経験等が異なるメンバーと協力して物事を進めていくこと、グループのメンバーが既に持っている知見を最大限活用すること等の重要性、物事をまとめることの難しさを感じました。そして、その中でも特に「コミュニケーション」が大切だということを学びました。これは今の職場でも日々感じていることであり、詳しくは後述したいと思います。

## (2) 人的ネットワーク

国内研修では、既に何年も第一線で活躍されている諸先輩方とお会いすることができました。それは講義中に専門的な知識を学ばせていただいたことに加え、講義以外の場で彼らの仕事に対する考え方、姿勢、熱い思いを聞くことができ、これから平和構築分野で仕事をしていくことに対する発破をかけられたような気がします。研修を終えた今でも講師の方々からはメールで助言いただく等、温かい支援をいただいています。



[講義後に講師の方と市内観光し、交流を深める齋藤さんと他の研修員たち]

そして、約 30 名の仲間との出会い。年齢は 20 代前半から 30 代後半まで幅広く、食事や飲み会、スポーツの場で互いの夢や不安について話したり、各々のこれまでの経験を共有したり、海外赴任先が決まると互いの友人を紹介し合ったりすることもありました。また、今でもメールやインターネット電話で個別に連絡を取り合っています。不慣れな環境で心細いこともある中で気軽に話すことができる仲間たちの存在は、私にとって何よりも大きな財産です。

## 3. 就職先での活動について教えてください。

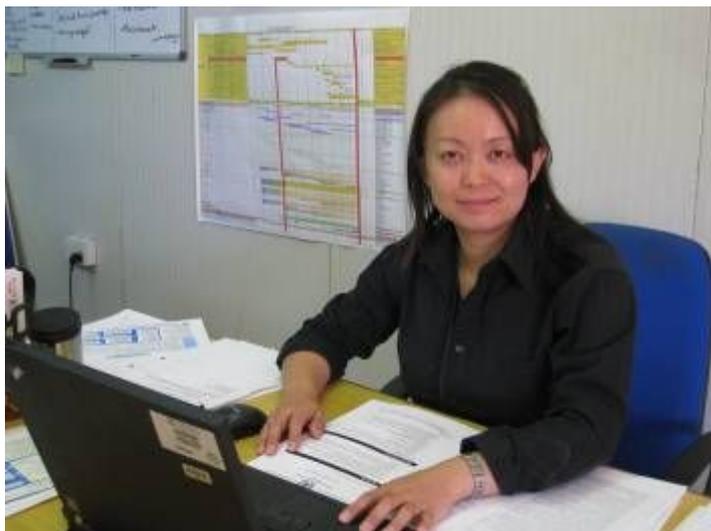
私の場合、国内研修受講後、平和構築人材育成事業の 2 本目の柱である海外実務研修を経ずに直接就職した形になるのですが、外務省や広島平和構築人材育成センター、内閣府 PKO 事務局、各国際機関、各関係省庁をはじめとする多くの関係者の方々からご指導いただいたことに対し、改めて御礼を述べたいと思います。

現在私は、国連が展開する国連平和維持活動 (PKO) の一つである国連スーダンミッション (UNMIS) の選挙支援部で活動しています。スーダンでは 2005 年、20 年以上続いてきた内戦を終結させる南北包括和平合意 (CPA) が成立し、現在復興への取り組みがなされています。

この和平合意の着実な履行の支援をするのが UNMIS の任務です。

和平合意においては、大統領選挙と南北での中央・地方総選挙の実施、2011 年をめどに南部の独立を問う住民投票の実施が予定されています。これらの実施のための助言と技術的な支援を提供するのが UNMIS 選挙支援部の役割であり、今は支援をするための準備を進めています。

#### 4. 就職先の感想は？



[職場での齋藤さん]

選挙支援部の中でも私が主に携わる分野は、コミュニケーション戦略立案や各州での有権者教育の支援、メディアやジェンダーに係る支援、各国大使館や市民社会団体等との連絡調整、選挙支援部以外の UNMIS 各部署との連携、事務総長特別代表やニューヨーク本部へ報告する文書の作成、ジュバや各州の担当者からハルツーム宛に提出される書類の精査等です。これまでの民間社会人としての広報や渉外の経験が直結して役

立っています。また、スーダンでの日々の業務を通して、紛争問題の根深さと長期的な視野をもって取り組むことの重要性を感じています。

前述した国内研修で学んだコミュニケーションの大切さについては、今の職場でも日々感じています。現在私が所属する部署だけでも米国、ペルー、オーストラリア、オランダ、パキスタン、レバノン、フィリピン、ブラジル、アイルランド、南アフリカ、イタリア、ウガンダ等と、さまざまな国籍の人がいます。その中で一つの目的に向かって物事を進めようとすると、日本人同士だと「何となく」で進めることができるかもしれないところをしっかりとコミュニケーションをとる必要性がでてきます。それを「語学」の問題にするのではなく、「相手の気持ち」を丁寧に理解しようと心がけています。また、そういった環境で会議を進行させようとしてもなかなかまとまりにくいのですが、国内研修のワークショップで講師の方からグループワークのファシリテーションの仕方についてほめていただいたことは今も大きな自信となっており、今の職場で打ち合わせ等を進行する上で役立っています。

#### 5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

まずは UNMIS での目の前の仕事に、精一杯取り組みたいと思っています。平和構築に関わる組織の中で広報や渉外の仕事は比較的バックオフィスの仕事であり傍流とのコメントを聞くことがあります。しかし、自分が好きな仕事でもありこれまで身につけてきたスキルや経験をさらに磨いていきたいと思っています。同時に、広報・渉外の担当として外部と接するときに、サブスタンス、平和構築や紛争問題全般に関する深い理解が求められることも日々強く実感しています。それには、スーダンの政治経済や選挙制度等についてさらに理解を深めることに加え、大国との関係や近隣国の情勢、他の紛争終結国の経験、国連安保理



[ナショナル・スタッフと打ち合わせをする齋藤さん]

での議論や国連の政治力学に関する理解や知見を広めていくことです。自己研鑽を怠らず日本人以外のネットワークも広げながら、自分が一番良い方法で世の中の平和を構築するための役に立てるような環境とご縁を大切にしていきたいと思っています。

## 6. 平和構築人材育成事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

私自身が道半ばの未熟な者としてコメントさせていただくとすれば、これは平和構築分野に限ったことではありませんが、「なりたい自分」のイメージを思い描いて日々それに少しでも近づけるように自分を磨きつづけることで、その自分に少しずつ近づいていくのではないかということです。さらに、その自分へ近づくための道は決して一つではなく複数あるのではないのでしょうか。

平和構築分野で働くようになるとすぐに気づくのが、携わっている日本人の多くが女性だということです。男女問わずこの分野で働くということは終身雇用の組織に勤めるのとは別の難しさがあると思います。しかし、だからこそ、所属する組織や社会ではなく自分自身が自分の進む道を決め、選択し、切り拓いていくことの醍醐味を感じられるのではないのでしょうか。そして、その仕事で世界で困っている人が少しでも平和に暮らすきっかけを築（つく）る仕事であるのならば、それだけで価値のある魅力的な仕事なのだと思います。

もし、平和構築に携わることを躊躇している方がいらっしゃったら、ほんの少しの勇気を持って飛び込んでください。この平和構築人材育成事業はその一步を踏み出すお手伝いをしてくれる場所であり、志高く互いに研鑽することのできる仲間に出会う貴重な機会になるこ

とだと思ひます。

平成 20 年度研修員

齋藤 昌子